



ふじみ自然塾 だより

2018.10.16

第 15-3 号

発行；富士見市民大学
ふじみ自然塾
編集；同 企画運営スタッフ
発行日；不定期

1. 第5回講座 採種実習ほか

8月4日9:10~11:35渋谷農園(南畑)で農業実習を行なった。当初は7月28日の計画だったが、逆走台風12号接近で1週間順延とした。

先ず、実習農場で、キュウリ・ナス・万願寺トウガラシ・オクラ・トマトを収穫した。続いて、営農用農場でナス畑・キュウリ畑などを見学した。

その後、荷捌き場で、キュウリとズッキーニの採種実習を行なった。実習後は、渋谷農園で採れた西瓜をご馳走になった。美味しい・おいしいと丸々1個を平らげてしまった。

最後に、感想など述べあい、採種した種を分けいただき散



写真①；採種実習

会した。

2. 第6回講座 座学と農場見学

9月15日13:30~16:10丸池集会所で座学を行ない、途中で農場(三芳)の見学を行なった。

昨日からの雨が降り続き、畑も泥濘んでおり、当初計画の大根の種まきは中止して座学とし、大根の種まきや秋野菜の栽培方法などを教わった。

雨が止んだので、車に分乗して農場へ行き、種まきや定植の終わった大根・白菜・チンゲン菜・小松菜などを見学した。途中、雨が強くなり、木の下で雨宿りも混じえながら。

集会所へ戻り、座学の続き。また、三浦大根の種を分けいただいた。

そのうち時間となり、感想など述べあう。農場見学



写真②；座学風景

出来て楽しかったとの声に、スタッフとしても救われた気分だった。

3. 第7回講座(公開講座) 講演会

10月13日13:30~16:00に鶴瀬公民館第3集会所で、ふじみ自然塾15周年・市民大学公開講座として、(公財)自然農法国際開発研究センターの石河(イコ)信吾氏をお招きして、「タネの未来~日本の食と農は大丈夫か~」というテーマで講演をしていただいた。

会場は満員、冷房が利かず、窓と出入口を開け払って、熱気に満ちた講演とQ&Aが行われた。

副理事長挨拶・講師紹介の後、講師から補足の自己紹介・センターの紹介があり、その後、講演が行われた。講演は、①自然農法とは、②農業(タネ)と食(食文化)のつながり、③タネの種類、④農業における品種(タネ)の重要性、⑤品種(タネ)の力(自家採種・品種育成)、⑥自家採種運動を広げよう、という内容で行われた。

一般のF1品種と財団のF1品種の違いでは、これまでの認識を新たにし、育種・自家採種の話では、今後、自然塾特別研修コースでもいろいろチャレンジしてい



写真③；講演会

きたいと思う。

Q&Aでは、講演の内容以外にも、種苗法改正・種子法廃止などにも話が及び、自然塾の関野先生・澁谷先生も参加・意見交換いただき有意義な講演会となった。

講演会終了後も16:45まで、有志が残り、講師を囲んで座談会を行なった。